



花園大学

# 同窓会通信

2016 September Vol.93



「卒業生の思い出が詰まった池は、今では学生の憩いの場となっています。」



CONTENTS

野球部が創部二十六年目で リーグ戦初制覇の快挙！	2
花園大学師弟座談会	7
松田 隆行(文学部日本史学科教授)	
大林 聖(会社員)	
成岡あゆみ(会社員)	
大西 将斗(文学部日本史学科三回生)	
同窓会ニュース	12
大学ニュース	14
卒業生へのインタビュー	16
浅井 崇氏(花園大学文学部史学科一九九五年卒)	
お元気ですか	18
教員寄稿ーお久しぶりですー	21
各種案内	22

# 野球部が創部26年目で リーグ戦初制覇の快挙！

本学野球部が京滋大学野球リーグの春季リーグ戦において初優勝し、その後の全日本大学野球選手権(神宮球場)にも出場し、各種マスコミでも取り上げられ花園旋風を巻き起こしました。今回、西岡義夫監督ほか主要メンバーに集まっていただき、リーグ戦を振り返り、今後の抱負をお聞きしました。



## 最下位から、 創部二十六年目の初優勝へ

平成二十八年五月二十六日、わかさスタジアム京都。一対〇で迎えた九回。一塁ランナーを抱えながら、青山投手が投げ込んだ渾身の一球を大谷大学の六番バッターが叩く。セカンドゴロとなり、シヨートそしてファースト北條選手へと白球が流れるように手渡され、塁審がアウトコールする。その瞬間、花園大学硬式野球部は勝ち点を四(九勝二敗一分け)とし、京滋大学野球リーグ初優勝を決めた。その瞬間をベンチで見届けた小林大準(主務学生コーチ)は言う。「優勝が近づいていくなかで、高まる気持ちを抑えながら平常心を心がけたのですが、決まった瞬間は、抑えていた気持ちが爆発しました。努力が報われてよかったです」この試合で四回裏決勝タイムリーを放った四番ファーストの北條葵己選手は「審判のアウトコールを聴いた瞬間、嬉しすぎてピッチャーに抱きつきに行きました」レフトで優勝の瞬間を見届けた矢野雅章主将は「僕らが入部したときには二部に落ちたりもしましたので信じられない気持ちでした。最高の結果が出せたので、嬉しいの

言です」と語る。

京滋大学野球リーグでは、京都学園大学と佛教大学が圧倒的な二強として優勝を分け合っており、両校以外が優勝するのは一九九九年秋以来のこと。しかも花園大学硬式野球部にとっては一、一九九一年創部以来、二十六年目にしての初優勝であった。九十三年のリーグ加盟以来、成績は低迷し、昨年までは二部に降格していたシーズンも含め五季連続で最下位を記録していた。前年最下位であったチームがなぜ優勝できたのか。センターを守り、一番バッターとして優勝に貢献した泉祐介選手は「自分たちの代で、優勝できると思っていました」と語る。「僕らの代は、入学した年に新人戦で優勝を経験しています。メンバー的にも逸材が集まっていて、それなのになぜ最下位になるのかなと思っていただけらいい。今季のリーグ戦を矢野主将は次のように振り返る。「昨季が最下位だったので、最初に去年の優勝チーム京都学園大と対戦しないといけませんでした。その試合で、延長まで行って四対二で勝ちました。エースの大江が投げましたので、自分たちの力を出し切れれば、もしかしたら勝てるかもしれないという気持ちはありました。むしろ二戦目に臨むときのほうが不安でした」その二戦目で



**小林 大準**(主務・学生コーチ)  
文学部日本史学科3回生  
平成26年3月15日  
八重山高専卒業  
沖縄県・石垣島出身。実家は臨濟宗妙心寺派のお寺。チーム運営を任せられ、主将の矢野と話し合い先発メンバーや作戦を決める。また、試合中は監督に代わってサインを出す。

**矢野 雅章**(主将)  
社会福祉学部 社会福祉学科  
社会福祉学コース4回生  
ポジション:レフト  
打順:七番  
平成25年3月15日 北嵯峨高等学校卒業  
北嵯峨高でも主将を務めていたが、3年の夏に骨折し、予選に間に合わなかったという苦い経験を持つ。

**西岡 義夫** 監督  
1936年11月1日生まれ、滋賀県長浜市出身。79歳。虎姫、滋賀大を経て浅井東小に赴任。湖北中を経て64年に伊香に赴任すると、野球部監督として68年夏、73年夏、77年春の甲子園に出場。伊香で15年、虎姫で13年、長浜商工で5年、長浜北で4年、彦根総合で6年、計40年以上、監督を務める。趣味はゴルフ。ハンディはシングルの腕前。家族は夫人と一男二女。

**北條 葵己**  
文学部創造表現学科4回生  
ポジション:ファースト  
打順:四番  
平成25年3月15日 北大津高等学校卒業  
京滋リーグ決勝、大谷大学との試合で、4回裏に決勝点となるタイムリーを放つ。

**泉 祐介**  
文学部 創造表現学科4回生  
ポジション:センター  
打順:一番  
平成25年3月15日 綾羽高等学校卒業  
花園大学不動の1番打者として打線を引っ張る切り込み隊長。走攻守三拍子揃い、持ち前の高い身体能力で花園大学の優勝に貢献した選手の1人である。

印象的な場面があったと矢野主将は言う。「七回の守り、二対二の同点で、ランナー一塁でした。僕たちはバッターをワンバウンドの三振に打ち取り、振り逃げの状態からキャッチャーが一塁に投げ、塁審もアウトのコールをしてこの回を0点で終えたいと思いましたがベンチに帰っていきました。しかし判定が覆って、そもそも三振ではなくて四球とされてしまい、ランナーも生きていたことになって、そのランナーが誰もいないグラウンドを回ってホームまで戻ってしまい、結局二点をいれられてしまいました。今までであれば、審判に対して抗議したりして、悪い雰囲気になる場面でした。しかし、そのときは、点を取り返したらいいだけだと気持ちを切り替えることができました



た。次の裏の回で一点返して、さらに次の回に泉が二塁打で出て、そのあと犠牲フライで返して同点になり、結局その試合は四対四の引き分けに持ち込むことができました。この試合で、今までとは少し違うかなと思いました」

### 自主性を重んじる監督就任による劇的な変化

チームの雰囲気は劇的に変わった理由について、選手が口を揃えて言うのは、今年十一月で八〇歳となる西岡義夫監督の存在。西岡監督は、高

校野球の監督として、指導する伊香高校を三度甲子園出場に導いた名将。「今年の春に監督に就任して、わずか二か月で優勝させてもらったわけですが、学長から就任要請をいただいた際には、自分が監督になって、また最下位になって、入れ替え戦で二部に落ちたら、どんな責任がとれるかと思って、ずいぶん悩んだりしました」長男の義徳さんの「五〇歳でもリストラに会う時代、絶対に引き受けないといけない」との言葉に励まされ、要請を受諾。「花園大学で、私が感じたのは自由な雰囲気です。しかも部員が一人一人きちんと目標をもって取り組んでいるので、無理にあしる、こつこつと言う必要はないと思いました。私自身が新人で、みんな先輩ですし、二〇歳を過ぎた一人間として立派な青年たちもいるわけです。私も一緒に学ばせてもらいながら、助言できることはして、基本的には、みんなの自主的な活動を見守るという姿勢であります」

その言葉どおり、選手交代やサインを主将と学生コーチに任せるなど、西岡監督は選手の自主性を重んじ、その結果、選手はのびのびとプレーすることができた。泉選手も「試合中のプレッシャーは一切なく、監督が背中を押してくれました」と語る。

「鬼から、仏の西岡になりました。頼むよと言っていたら、よく打ってくれるんですわ。守備もいいね。中盤ぐらいいから、これは優勝してもおかしくないかなと思いましたが、しかし、うめぼれや油断は禁物です。あんまり浮かれすぎてもいけませんので、ブレーキをかけながら、ずっと戦ってきました」

優勝決定後の胴上げされた瞬間は「格別だったと西岡監督は笑顔をみせる。高校野球の指導者をしてきた頃は、優勝して胴上げをもらったこともありませんでした。でも四〇年ぐらいい前の話ですからね。料亭の宴席で、五〇代、六〇代のOBに胴上げされて、天井にあたりかけたことはありませんが、まさかこの年齢になって、グラウンドで胴上げしてもらえらるとは、本当に夢にも思いませんでした。女子マネージャーも含めて、みんなが盛り上げてくれて、こんなにいい結果が生まれたわけです。部員たちにもいつも感謝していますよと言っています。サッカーの岡崎選手がレスターでプレミアリーグ優勝を二〇〇年ぶりに飾りましたが、今回の優勝はまさにそれに匹敵します。花園大学の歴史に栄光の足跡を残してくれたと思っています」

### 神宮球場での悔しさを胸に秋のリーグ戦へ

リーグ戦で優勝を遂げた花園大学硬式野球部は、全日本大学選手権に初出場を決め、神宮球場（東京）での試合に臨んだ。北條選手は「神宮のグラウンドに入った瞬間にモチベーションがあがりましたね。よしやるぞという感じでした」と言う。

初戦の関西国際大学との試合、初回に山田快選手、北條選手の連続タイムリーなどで三点を挙げ、六回にも一点を加えてリードを広げた。「投手も大江だったので、これであれば行けるという感じであったのですが、あの日は雨が降っていて、神宮のマウンドも硬いというか、普段の球場と違ったようで、終盤にかけて球威やコントロールが落ちてきたところを狙われ、八回で同点に迫りつかれました。しかし雰囲気は悪くなく、同点のまま九回を終わりましたと矢野主将は試合を振り返る。延長では、タイムブレイクという方式が採用された。これは一死満塁から攻撃を始め決着をつけるというものだ。打順も自由に決められるというもので、花大は泉選手を先頭打者として送りこんだ。思い切り振って、三振でした。一発を狙っ

たのですが、しかし、その後、後輩が打って来て三点入ったので、ほっとしましたと泉選手は言う。しかしその裏、関西国際大学の攻撃で四点が入り、サヨナラ負けを喫した。勝てば次が明治大学だったので、なんとしても勝ちたかったのですが」と矢野主将は悔しさをにじませた。

四回生にとっては、秋のリーグ戦が最後の戦いとなる。泉選手は入学当手を振り返る。「びっくりしたのがグラウンドの小ささですね。専用球場を持っている大学などもありますが、自分たちはハングリーさでは絶対に負けないという気持ちでやってきましたその様子を西岡監督も見ており、「泉君は、チューブを挟んで毎日バッティング練習をしていましたから。自分から何かを求めてやるうという姿勢がみんな強いです。それが花大の良い点です」と語る。「最高の仲間に出会えて、神宮にも出ることができ、花園大学に入学してよかったです。秋も全力で臨みます」と泉選手は抱負を語る。

矢野主将も「グラウンドではノックも内野でしかできず、バッティング練習もネットを出してこないといけないなど、全体練習は制約がありますので、短い時間で集中して練習し、その後は、各自が練習する形を採っています。練習をあまりし



ない人がいれば、その人のところに行って話をしてみました。今季は、勝つことで自ずとチームも結束して一つになりました。矢野主将は高校時代、野球部の主将を務めていたが、最後の夏、練習中に球が顔面に直撃して骨折。入院を経て復帰したものの、予選には間に合わず涙を飲んだ経験も有する。「ここまで野球を続けてよかったです。リーグ戦で優勝でき、神宮も経験でき、秋には有終の美を飾って卒業したいです」

秋に向けて、西岡監督も次のように語る。「ほとんどメンバーが変わらないので、勝ち進んでもお

かしくないけれど、野球は、力と結果が必ずしも一致しません。春はあれだけやっておいて、なんだ花園、秋はどうなっちゃったんだと、そんな風に言われることだけは悔しいので避けたいですね」

## 思いを一つにして結果を出すという 花園野球の伝統

三回生の小林大準学生コーチは、「上が良ければ、下の回生もしっかりします。先輩たちががんばっているの、自分たちもしっかりしないといけないなという気持ちになって、いい雰囲気チームにできたと思います。以前は負けが続くなかで、雰囲気も悪かったです。勝てば勝つほど、チームがひとつになって、スタンドも選手も一丸となって戦えたのではないかと思います」小林コーチは石垣島の出身で、高校時代は外野手で主将を務めたが、二年間公式戦出場はなかった。「もともと野球が下手なのですが、高校の恩師に憧れ、将来的に高校野球の指導者になりたいという想いもあって、学生コーチとしてがんばってみようと思いました。花園大学を選んだのは、実家が同じ宗派である臨済宗妙心寺派の桃林寺であり、将来のために僧職の勉強をする必要が

あったからです」と言う。

矢野主将は、今後の抱負を次のように語る。「リーグ戦を通じて後輩たちも成長して、練習への取り組み方も変化してきているので、この状態であれば、自分たちが卒業しても問題ないと思います。小林も残ってくれるので、チーム一丸で戦っていくというスタイルが、花園のこれからの伝統になっていくと思います。規則を厳しくするよりも、みんなの気持ちが一つになることのほうがいいと思います。そういう伝統を後輩たちにも引き継いでほしいと思います」

それに応えて小林コーチは次のように言う。「これまでは挑戦者でしたが、これからは追われる立場になります。他大学も警戒してくると思いますので、気をつけたいです。頼りになる先輩ばかりなので、いざ卒業されて自分たちだけになったときに、どうしたらいいかと思いますが、長谷川学生コーチと二人で、サインなども決めて、指示を出し、一戦、一戦、ぼくらの野球ができるようにしたいと思います。よい伝統を引き継ぎながら、僕たちは僕たちのチームカラーを出していければと思います。下の学年も熱いやつらばかりなので期待してください」

# 花園大学 師弟座談会



松田 隆行

文学部日本史学科教授



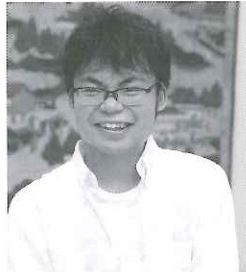
大林 聖

文学部史学科総合日本史学コース  
2007年3月卒業  
勤務先：株式会社イトーヨーカ堂  
(現在、セブン-イレブン・ジャパン出向)



成岡 あゆみ

文学部史学科総合日本史学コース  
2009年3月卒業  
勤務先：株式会社 俄屋吉富



大西 将斗

文学部日本史学科3回生  
2018年3月卒業予定

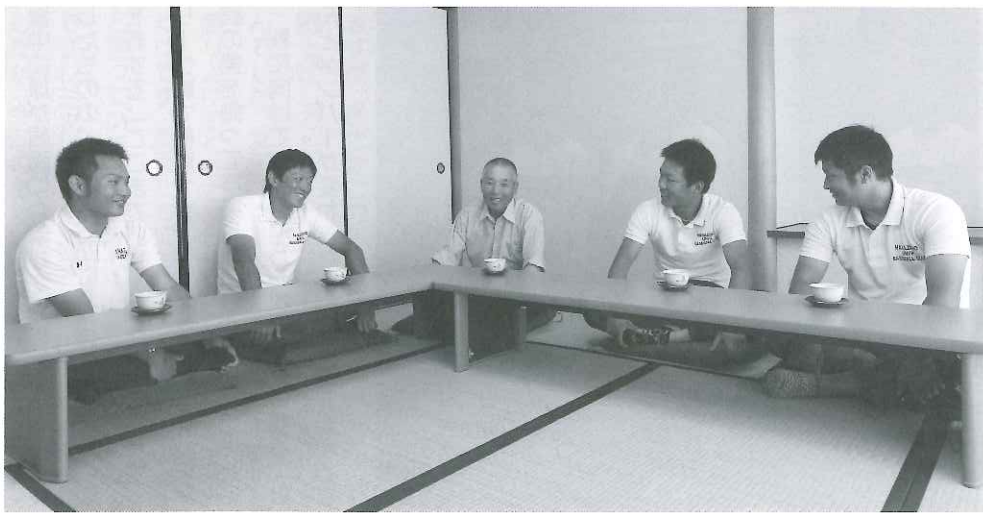
## 在校生と卒業生が相見える

松田▼本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。花園大学文学部日本史学科の松田隆行です。専門は日本近現代史で、具体的には、明治維新や十五年戦争ですね、近年は、満州事変、日中戦争、太平洋戦争のあたりを主に研究しています。花大に赴任したのは二〇〇二年四月、今年で十五年目になります。

大林▼大林聖です。出身は三重県です。花大には二〇〇三年に入學しました。私は二〇〇七年に一回卒業して、社会福祉学部に入塾して二〇〇九年にもう一度卒業しています。現在は、所属する株式会社イトーヨーカ堂からの出向で、セブン-イレブン・ジャパンで勤務しております。

成岡▼成岡あゆみです。出身は沖縄県です。もともと歴史が好きで、京都に魅力を感じて、二〇〇五年に花大に入學しました。二〇〇九年に卒業して、京菓子の俄屋吉富に入社し、総務部経理課に配属されました。その後、異動して現在は総務部総務課で勤務しております。今年の春から、総務課の業務に加えて、広報の業務も行っています。

松田▼今日は在校生にも参加してもらっています。



全日本大学選手出場にあたり、  
花園大学同窓会より、支援をいたしました。

大西▼文学部日本史学科三回生の大西将斗です。出身校は大府立福井高校です。坂本龍馬が大好きなので、坂本龍馬と薩長同盟の関係性について、調べていきたいなと考えています。今日は先輩方のお話を聞けるので楽しみにしています。

成岡▼大西さんは、進路はどうお考えですか。

大西▼今、自分には何ができるか、考えています。

自分は困っている人がいたら、すぐに助けに行きたくなるタイプなので、地域を盛り上げるような仕事ができたらいいと漠然と考えています。今は、学外での様々なボランティア活動をメインで行っています。この大学は狭いので、学科の友人はもちろん、他学科の友人などもすぐできるようになって、そこから様々な誘いが来たりします。

さらに、就職課に行っても職員の方々に顔を覚えてもらったり、自分にとってメリットになることがたくさんあります。

大林▼そうですね、花大は人と人の関係が近い。

大西▼学生時代、楽しかった思い出は何ですか。

大林▼楽しかったことがありません。混声合唱団に所属していました。来週、現役とOB・OGとのジョイントコンサートがあつて練習をしています。ゼミ旅行も楽しかったですね。自分たちで企画して、城崎温泉に蟹を食べにいきました。

けばいいかは、教えてあげる。しかし、自分の目で見て、自分の頭で考えて、歴史を描きなさいというわけです。

成岡▼なるほど。

松田▼このように、歴史学は料理に喩えることができるわけです。これまでの研究文献や史料に基づいて書かれたのが歴史の本です。だから完成品だけをみるのではなくて、つくる途中のところが押さえてみることでできるといえるのが、我々大学で歴史をやる者の強みです。そのつくる過程を自分で経験すると、きちんと批判的にものをみることができるようになります。また、花園大学のように卒論を和綴りで製本して提出するというのは、京都でもいまや一、二校しかないと思うのですが、卒論が自分の「作品」であることが実感できるのです、非常によいことだと思います。

### 歴史学を学んで身についたこと

大西▼歴史学を学んでよかったと思いますか。

大林▼歴史を学んだことで、マスコミ報道にしろ、これは本当のことなのかと、常に疑問に思う姿勢が身についたと思いますね。私のように流通

松田▼ゼミ旅行は、成岡さんのときも二回行きましたかね。

成岡▼城崎温泉と下呂温泉ですね。私も大学生活は楽しかった思い出しかないんですよ。結構いろんなことに挑戦しましたね。大学の図書館でアルバイトしたり、就職課の方々と中心になって大学を盛り上げる活動にも参加しました。フリーパーパーもつくりましたし、勉学以外のことも充実していました。

### 卒論を通じて歴史研究に触れる

大西▼卒論はいかがでしたか。

大林▼卒論は、本当に大変でしたね。

大西▼どのようなテーマで書かれたのですか。

大林▼幕末の京都から東京への遷都について調べました。史料は多くはないので、背景などから論じていく必要がありました。文献や史料が図書館には少なく、「東京幕末の真相」という本を先生に購入していただきました。

成岡▼大西君の場合は、テーマも決まっているので、やりやすいとは思いますが、あとはどういった切り口でまとめていくのかですね。先輩の卒

論を少し見ていることもいいかもしれませんが、文献や史料集めが大変なんですよ。

松田▼坂本龍馬と新選組など人気あるテーマは、それ単体で行くのは難しいです。新選組であれば、幕末の会津藩など時代背景をきっちりやらないと、「土方さん、キャー！」みたいに憧れの気持ちだけでは論文は書けません。坂本龍馬にしても、大西君の先日の発表は、薩長同盟が成立する前の段階を研究したものでした。先日は、ポイントをあれこれと説明しましたけれど、今後はそうした説明はだんだん少なくなっていくですよ。

大西▼はい。

松田▼私の学生時代のゼミの先生が、歴史の研究を「魚を釣って料理する話」に喩えていました。まず、「どこに魚がいるかは教えてあげる」と、つまり、どのような研究文献や古文書などの史料があるかは、教えてあげるといわけです。次に、「でも、釣竿につける仕掛けはちゃんと自分でつくって、自分で餌をつけて釣りなさい」と、つまり、多くの文献や史料を自分で探して、その中から自分にとって重要なものを選び出しなさいというわけです。そして、「魚が釣れたら、魚のおろしかたは教えてあげられるけども、包丁は自分で研ぎなさい」と、つまり、文献や史料からどのように歴史を描

関係で働いていますと、例えば六月一日には、前月五月の営業成績の速報値というのが出され、その速報値から一週間後ぐらいに、確定版が出されます。営業成績について前年比という話がよく言われますが、そうしたときに、単に数字で比較するのはなく、この時には、どういった出来事があったかとの関係でこうなったのだと、きちんと分析的に見ようと心がけています。数字の裏に何かあるかを考えることが大切です。例えば、震災という出来事があったから、特需的に売上が伸びたとか。このように、原因の究明をしようとする姿勢が身についたのは、歴史学を学んだおかげだと思います。

松田▼今、彼は非常に大切なことを言いました。ある一定の条件のもとに、こういう事象が出て来るといふものの見方、考え方が重要なのです。やはり、これが歴史学というか、社会科学のものの見方、発想の根本だと言えます。例えば、原爆について言えば、原爆が落ちたことは事実です。しかし、歴史的事実をどう捉えるかという歴史認識においては、日本とアメリカでは全く異なっていて、まずアメリカでは、原爆を投下せずに上陸作戦を行った場合には、何十万とか、百万とかの犠牲者が出たであろうから、それを止めたという

意味で、原爆投下は正当化される、そういう歴史認識が未だに根強く神話のように残っているわけです。しかし、日本の側からみれば、凄まじい数の犠牲者が出ており、紛れもない大量殺戮であるし、当時の国際法からみても、れっきとした戦争犯罪であるという認識があります。全く同じ事実について、評価が分かれるわけです。そもそも、なぜ原爆が落とされたのかという点については、やはり、アメリカとしてはソ連が参戦してくる前に、アメリカの力で戦争を終わらせて、日本をひいては東アジアを思うとおりに動かしていこうという狙いがあったと言われています。原爆投下の理由において、対ソ連の問題はまったく無視することはできません。それがどの程度のインパクトがあったかは意見の分かれるところですが、まずはアメリカの思惑ということを歴史学は明らかにする、鼻くといってもいいかもしれません。そういうことをするのが歴史学の役割です。原爆にはいろいろな神話があつて、日本がポツダム宣言を黙殺したから、原爆を落とすと言われるのですが、原爆投下命令は、それ以前に既に出されていたわけです。一般に流布されている話やイメージと、歴史学の成果は違うわけです。

成岡▼京都も原爆の投下目標だったそうですね。

や、ゼミの発表のときに、その調べ方を教わったので、その影響があるんじゃないかな。

### 花園大学の魅力

**松田**▼花大には、様々な先生が、学生の力を伸ばすことに主眼をおいて取り組んでいる雰囲気があります。学生さんも全体的に真面目で、他大学と違うのは、ががつががつした損得勘定でものを考えない点かなと思いますね。他大学の経済学部でイギリスの経済史を教えている私の知り合いは、学生に「先生、役に立つこと教えてください」と言われて、衝撃を受けたと言います。歴史学を含めて学問というものは、思わぬところで間接的に役に立つものなんです。短期間でストレートに役に立つという発想では、大学で学んだ意味がないので、そういう長いタイムスパンといいますか、間接的に役に立つというところで見ないといけません。花大の学生さんは、そのことを理解してくれるのではないかなという感触がありますね。

**成岡**▼そうですね。  
**松田**▼歴史は過去のことを学ぶわけですから、それは現在を分析したり、未来を見通したりする

活にストレートに結びつくわけではありませんが、ものの見方、考え方のところで、役に立つてくれればいいかなと思います。

**成岡**▼普通、本は最初から読みますよね。だけど、私の場合、なんとなく、後ろのほうから、奥付を見てしまう癖があるんです。奥付をみて、なるほど、この本は何年に出版されているんだ、もう何刷まで行っているんだと見てから、本を読み始めます。これは、歴史を学んだからではないかと思うのですが。

**松田**▼そうですね。私も奥付やあとがきから読む癖があります。本を書いている人がどういう人かを確かめるんです。実は、「Eカー」という有名な歴史家がありますが、彼の「歴史とは何か」という本に「歴史を研究する前に、まず歴史家を研究しなさい」というくだりがあります。その歴史家自身が時代の産物なわけですから、その著者の生きた時代や政治的な立場なども見ただうえで中味を読まないといけません。だから、あとがきから読むというのは意味があるわけです。

**成岡**▼著者がどういう本から影響を受けているかを知るために、参考文献も見ておかないといけませんね。今も私は、本を読むとき、参考文献のページを読むのが好きなんです。卒論を書くとき

なかで生きていることでさらに成長することにながっているなという印象を持ましたので非常に嬉しかったですし、私の自信にもつながりました。また引き続き皆さんにもがんばっていただきたいと思います。本日はありがとうございました。  
**卒業生**▼ありがとうございます。



に立つ、ものの見方を学ぶことなどもあります。私は、花園大学では、その両方が学べると思えます。例えば、就職課で様々な就職講座もあって、ぼくのように販売士一級の資格を在学中に取得できます。今では、宅建の免許も取得しています。花園大学は、教養的な一生涯使えるものの見方、考え方と、就職試験で有利になるような資格取得と両方学べる良い大学だと私は思いますね。  
**成岡**▼そうですね。花大では、自分から積極的に動けば、様々なメリットを得ることが出来ます。大西さんも、なるべく多くの人と関わって、大学生活を充実させてくださいね。  
**大西**▼ありがとうございます。今日、先輩方のお話を聞いて思ったのは、学生のうちにしかできないこともあるのだなということと、これからの目標はとにかく視野を広げること、考え方をいろいろ増やしていこうかなと思います。  
**松田**▼教員をしていて嬉しいのは、一つは卒業生が訪ねてきてくれたり、連絡をしてくれたりすることです。極論すれば、卒業式の日、三月十七日を目指して、その日のために我々はやっているわけです。今日の話を聞いて、自分のやったことがささやかではあるけれど、それがやっぱり卒業生のなかに残っていて、それが日々の仕事や生活の

ために学ばなければならないですね。例えば政策を決定しようとする際、何を材料に判断するかという歴史しかないわけですよ。実際にあらゆる社会科学は、必ず歴史科学としての性格を有しています。経済学であっても経済史を学ばないといけません。あらゆるところで、歴史と現代を分析する学問はセットになっているわけです。もうひとつ歴史学には、現代と違う世界を提供するという意味合いもあると思います。現代と異なる世界や価値観などに思いを馳せることで癒しを得る側面もあっていいわけです。現代を相対化する、今あるものが絶対ではなくて、別の世界や別の価値観があるんだという学びを歴史学は与えてくれます。現在、どこであれ大学は、経済界のいう、今の社会の価値観に合った人材を生産する機関になりつつあります。もちろんやるべき点はやらないといけないのですが、ある程度社会との接点や役に立つことを意識しながら、それとはまた別の世界を大学は維持しないといけないと思うんですね。そこが花園大学のふんばりどころというか、試金石だと思っています。  
**大林**▼松田先生のおっしゃるとおり、社会で短期的に役に立つこともありますし、長期的に役

2016(平成28)年度

# 同窓会ニュース

時代は変わっても続いている卒業生同士の交流や親睦。  
今年度も、支部総会・役員会、同窓会など多数開催のご報告を  
いただいております。一部をご紹介申し上げます。



## 同窓会愛知県支部総会

愛知県支部長 箕輪 良孝

第八十六回花園大学公開講演会を開催して

三月九日 尾張旭ロータリークラブ創立四十五周年記念講演会と共催して、尾張旭市内良福寺会館にて玄侑宗久氏を招請し「風流ここに至れり」と題して開催しました。同窓生二〇余名を含み約三〇〇名の参加がありました。

尾張旭ロータリークラブは毎年東日本大震災の被災地を訪問し福島県三春町にある富岡町の仮設小中学校にも慰問しており、その縁もあり三春町在住の玄侑氏をお願いしました。



演題 風流ここに至る  
講師 玄侑宗久

「今」にゆるぎながら、常に重心を取り直す禅の智慧からイスラム世界との関わり等々大変参加者から好評でした。

## 同窓会大分県支部総会

大分県支部長 後藤 康道

去る四月二十六日、別府市のホテルニューツル夕に於いて同窓会大分県支部総会が会員二十九名の参加、また大学から松井宗益学園長、児嶋紹義師の御列席の元開催されました。本年は役員改選の年に当たり、副支部長に廣見宗泰氏が、事務局長に津守清満氏が新たに選出されました。総会終了後の懇親会では松井、児嶋両師と縁のある会員もおり大いに盛り上がりました。会員との旧交を深めることが出来とても充実した集いとなりました。



## 同窓会信越支部総会

社会福祉学部社会福祉学科教授

福富 昌城

去る五月二十九日(日)に、花園大学同窓会信越支部の総会に参加いたしました。

信越支部は磯部弘文支部長様のもと、昨年度から活動を再開されました。

信越地域には三〇〇名あまりの卒業生がおられ、今回の総会・懇親会には二十名弱の同窓生が集いました。大学がまだ妙心寺の隣にあった頃の卒業生から三年前の卒業生まで、僧侶の方から小さな子どもさんと緒の方まで、さまざまな同窓の仲間が集い、親交を深めました。

また、私としては六年前に社会福祉の実習を担当した卒業生(新潟から車で三時間半かけて駆けつけてくださいました)に会うことができ、嬉しな思い出がありました。



## 就職課

就職は「大学の出口」ではなく、「社会への入口」。

「今、ここ、わたし」 「たった今、私は如何なるものなのか、私に何ができるのか、私は何を為すべきなのか」この問いを生涯をかけて問い続けることができる人間を、しっかりと社会へ送り出す！この思いを持って、私達、就職課は日々学生をサポートしています。昨年、今年と異なる就職活動の解禁時期、めまぐるしく変化する現代社会に合わせてタイムリーな支援を届けています。今や主流となったWEBサイトの使い方や履歴書の添削、実践型面接練習「The面接プロジェクト」、業界研究「アピールフォーラム」や学内合同就職説明会等開催しています。その中でも個別のキャリアカウンセリングを一番大切にしています。「面倒見のよい大学」として、一人ひとりの進路選択、一人ひとりの個性を大切にしながら、内定獲得だけを目



指すのではなく、未来につながるサポートを行っています。卒業生の方々の進路相談も受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

# 大学ニュース

二〇一六(平成二十八)年度報告

花園大学で行った行事やイベントなどを  
中心とした新しい情報をご紹介します。

## 花まつり(降誕会)

五月二十五日の昼休み、無聖館前で行われ、学生や教職員多数の参加がありました。花まつりは、正式には降誕会(こうたんえい)といひ、お釈迦様の誕生日である四月八日を祝う行事です。当日はさわやかな青空のもと、学長のご挨拶があり、洛西花園幼稚園の二人の園児による、献灯と献花が行われました。その後、園児たちによる合唱と、混声合唱団によるコーラスが披露されました。曲中には園児たちによるかわいらしい振り付けもあり、大いに場を盛り



り上げてくれました。また、参加者全員が人すつ水盤の誕生仏に甘茶を灌ぎ、邦楽部の演奏や茶道部の野点を楽しみながら、甘茶を頂くという和やかで実りある時間を過ごしました。

## Festa花大

### 今年「輝希(きらめき)」

二〇一六年学園祭実行委員長

文化遺産学科三回生 山本 隆貴

今年度も無事に学園祭を開催することになりました。二〇一六(平成二十八)年度は十月二十八日から三〇日まで開催させていただきました。今年度は部員も少なく各目的作業も大変ですがそれぞれが去年より、より良い学園祭を作ろうと活動しています。先輩方、教職員の皆様、学生の皆様、地域の皆様のご協力、支えの上に成り立っていることを胸に刻み、ご期待に沿えるよう努力してまいります。

また、今年のテーマは「輝希(きらめき)」です。

自分の目標や夢に向かって、今この時をがんばっている人はとても輝いて見える。頑張る事



の大切さは内容よりも行動だと思えます。学園祭もその一つ。私たちも参加されるみなさんも学園祭という一つのゴールを目標に頑張っています。そんな皆さんの輝く未来を、希望を少しでもサポートできたらと、このようにテーマにしました。

このテーマを私たちの目標とし、より良い学園祭と共に実行委員一同、皆様をお待ちしております。

## 第二十九回花園大学人権週間報告

二〇一五年十二月七日から十日にかけて第二十九回花園大学人権週間を開催しました。

七日は前夜祭「いのちがいはばん輝く日」があるホスピス病棟の四〇日、「溝淵雅幸監督/二〇一二年/日本」を上映しました。



## 中国佛教視察団のご来校

六月十日、中国佛教教育訪日視察団の方々が花園大学へ来校されました。視察団は、中国佛教協会の副会長である宗性師を団長として構成されており、日本の仏教教育の視察を目的として訪日されました。当日は本学の禅堂教室を見学された後、丹治学長をはじめとする本学の出席者とともに、交流の式典が開かれました。式では記念品が贈呈され、本学からは、オリジナルグッズとして製作しているトートバッグやクリアファイルをお贈りしました。一方、視察団の方々からは、以前中国佛教協会の会長を務めておられた趙樸初(ちようぼくしゆ)師直筆の書や、峨眉山の特産のお茶などを頂きました。

式の最後には、記念として、団長である宗性師が訪日臨済宗花園大学と題する以下の偈頌(げじゆ)をお詠みくださいました。

白雲若現現大円

青靑花園露禪天

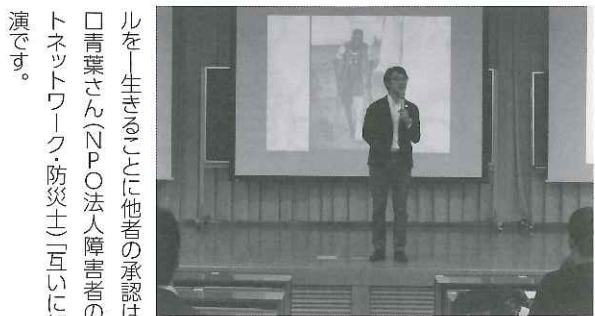
青靑せいせいいたる花園、禪天に露(あら)わゆる  
会得(くわいとく)一句(いちご)涵(く)むを会得(くわいとく)

活活(くわく)澆(じやう)澆(じやう)無(む)辺(へん) 活活(くわく)澆(じやう)澆(じやう)無(む)辺(へん)を照(て)らす  
(訳)まやかかな悟りの世界に白(しろ)い雲(う)が現(あら)われては隠(かく)れ、草花(くさな)生(な)い茂(さ)る花園(くわん)に禪(ぜん)の世界(せかい)が顕(あら)現(げん)している。  
玄(げん)要(よう)が含ま(ふ)れた一句(いちご)を会(くわい)得(とく)すれば、びちびちと躍(た)び動(どう)し全(ぜん)てのもの(もの)をありありと照(て)らした(した)さう(さう)。

その後、視察団の方々には本学出席者とともに記念撮影を行い、出発されました。仏教を通じて交流を重ね、本学にとっても大変有意義な時間となりました。

同師はこの偈頌について自ら次のように解説してくださいました。まず第一句では、本学の教室にも円相が掲げられる、日本臨済宗中興の祖白隠(はくいん)慧鶴(えかく)禪師(ぜんじ)にちなみ、「白」と「隠」の一字を詠みこんでいます。また、つづく第二句では、本学の建学の精神である禅の心が、キャンパスのいたるところに顕現していることを表現しています。そして第三、第四句では臨済宗の祖臨済(りんざい)義玄(ぎげん)と、禪師の三つの言葉を踏まえています。すなわち、第二に「玄要」は臨済が弟子を導く際に示した勅所の「三玄三要」を指しており、第二に「活活澆澆」は「活活澆澆地(くわくくわくじやうじやうち)か(か)つ(つ)ば(ば)つ(つ)じ(じ)なる(なる)こと(こと)を識(し)取(し)き(き)し(し)め(め)せ(せ)よ(よ)び(び)ち(ち)躍(た)び(び)動(どう)す(す)る(る)真(ま)の(の)主(しゅ)体(たい)を(を)看(み)て(て)と(と)れ(れ)」という臨済の言葉に基づいています。そして第三に「照無辺」は、臨済が示寂に際して詠んだ偈頌の一句「真照無辺(まにやうむへん)があらゆる場所を照らします」を踏まえています。

その後、視察団の方々には本学出席者とともに記念撮影を行い、出発されました。仏教を通じて交流を重ね、本学にとっても大変有意義な時間となりました。



八日からは講演会です。八日、鬼丸昌也さん(NPO法人テラ・ルネッサンス創設者理事)こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した。九日は、朝霧裕さん(シンガーソングライター)作家「すべてのいのちに花マルをー生きることに他者の承認はいらない」、十日は、阪口青葉さん(NPO法人障害者の自立を支えるサポートネットワーク「防災士」互いに知り合う防災)の三講演です。

今回は、人を支えるということについて考えさせられる人権週間でした。死を目前にした人をどのように支えるのか、海外で戦争・紛争に巻き込まれた子どもたちへの支援、障害者の暮らしへのサポート、災害に備え地域などのように支え合うのか...などなど。どのような状況にあっても、人が人として、その人らしく生きていける社会とはどのような社会であるのか、考えさせられた人権週間でした。

二〇一六年度には第三十回目となる人権週間を開催いたします。

詳細は  
<http://www.hanazono.ac.jp/jinken/jinkenweek>  
をご覧ください。

(ず)と(う)あ(き)こ(う)人(権)教(育)研(究)セ(ン)タ(ー)特(任)事(務)職(員)





# 情熱をもって、 自らの道を切り拓く

浅井 崇氏さん

IVS Co., Ltd. General Director  
インディビジュアルシステムズ株式会社 代表取締役  
(花園大学文学部史学科 1995年卒)

## 震災下の措置により卒業し、 そのままベトナムに留学

浅井崇氏さんは一九九五年に文学部史学科を卒業と同時にベトナムに渡りました。「私は服部教授の近現代史のゼミに所属し、ベトナム人の友人の影響もあって卒論のテーマにフランス領インドシナへの日本軍進駐を選びました。日本が日中戦争から太平洋戦争に踏み出した第一歩と言われています。卒論を提出した直後に阪神淡路大震災が起きました。その影響で、実家のある神戸から大学に通学ができなくなり、最後の試験が受けられなくなりました。しかし寛大なる先生の措置により単位が認定され、卒業できました。留

年するつもりだったので、就職先も決まっておらず、これからどうしようかと悩みました。親からは「どこかに行けば」と言われ、卒論で扱ったベトナムへの留学を決意しました。「ハノイ国家大学の留学を終えて帰国した浅井さんは、当時ベトナムへの進出を予定していた企業に就職します。「97年に駐在員として赴任しましたが、アジア通貨危機が起こり、その年の暮れには私の会社はベトナム撤退を余儀なくされます。社会人一年目で大変な経験をしました。」再び帰国した浅井さんは、お父様の仕事を手伝いながら、神戸在住のベトナム人たちとの交流を深めていきます。「技能実習生に、きりっとした人たちがいたので尋ねると「ITエンジニアでした。とても優秀な人達で仲良くなりましたが、彼らが戻るといっているので私も追いかけてベトナムに行きました。二〇〇〇年末のことです。」

## プライドをもって仕事に取り組み、 信頼される企業を目指す

日本や欧米の企業が人件費や事業コストを削減するために、新興国の企業などに開発業務を委託するのがオフショア開発ですが、ベトナムは中

けができなくなる前にベトナムや東南アジアで現地向け事業を展開することが必要です。現在は八割がオフショア、二割が現地企業向けのシステム開発やパッケージ開発等に取り組んでおり、後者に関して可能性が見えてきています。」

## 過去に学び未来を切り拓く IT業界とともに歩む

「現在、ベトナムではスマートな若い人が増え、私は彼らを新人民と呼んでいます。都市で一人当たりのGDPが三千ドルを超えると、秩序ができクラクションが鳴らなくなるといのが私の持論ですが、現在ホーチミンがそうなっています。しかし、古き良きベトナム人たちが変わっていくのは少し寂しいですね。ベトナムでインターネットが解禁となり、IT業界が立ち上がったのは二〇〇〇年代です。私はその黎明期に起業し、ベトナムのIT業界と共に歩んできました。先見の明があったわけではなくベトナムと運命を共にしてきただけです。私は史学科で学んだものとして、過去から未来を予測するという歴史学的な視点で事業経営をして来ました。全てのことに歴史があって、それを振りかえることの大切さを私

国・インドに代わる委託先として注目されています。浅井さんは二〇〇二年にホーチミン市で現IVS Co., Ltd.を設立(日本人インディビジュアルシステムズ株式会社)は二〇〇五年設立。「当初は、ベトナム人ITエンジニア向けに日本語クラスを開発し、そこからオフショア開発案件の受注に事業を広げていきました。弊社の場合、二〇〇名ほどの社員がいますがベトナム人と日本人が分け隔てなく連携しており、その点が他社には無い点です。ベトナム在住の日本人経営者でベトナム語ができる人は多くありません。私は留学していたのでベトナム語に不自由しませんが、ベトナムでビジネスをする以上、ベトナム語ができるのは特別なことではないと思っています。私たちはユーザー企業から最も信頼される企業になることを目指して、言われたことだけをやるのではなく積極的に提案を行うことを心がけています。スタッフがプライドを持って仕事に取り組んでいるのも他社と違う特質だと思います。」

「ただベトナムの人件費の安さに頼ったビジネスモデルは長続きはしません」と浅井さんは言います。「社員の生活を向上させるのが私のミッションですが、人件費が上がると仕事がとれなくなるというジレンマがあります。日本からの下請

は花大で学んだと思います。」

現在、花園大学では留学生受け入れの計画が進んでいますが、浅井さんには卒業生としてご協力いただいています。「私は母校が未来永劫続いて欲しいので微力ながら協力したいと思っています。昨年、講義もさせていただきましたが、今の学生は言われたことをやるについては、長けているかもしれませんが。しかし自らの意志を表現するのが不得意な人が増えていると思います。大切なのは情熱です。会社経営でも統計をとって分析をして戦略を立てたとしても、ブレイクスルーの決め手になるのは情熱です。情熱を持つためには、好きなことをやるのが一番です。予め決められたルールなどなく、自分自身で人生を切り拓いていくんだと、自分自身を鼓舞し、好きなことを情熱をもってやるのが大切だと思います。後輩の皆さんの活躍を期待しています。」



# お元気ですか

豊かな時間をともに過ごした  
同窓生からお手紙が届いています。

昭和四十九年史学科卒

斉藤 伊作夫

昭和四十九(一九七四)年三月・史学科卒業の斉藤伊作夫です。

平成二十八年(二〇二六)の、三通信で近況をお伝えしましたところ、同窓会通信の原稿依頼を頂き、今回の通信となりました。

さて、私が花園大学に入学したのは今の総合大学ではなく、仏教学科・社会福祉学科・史学科・国文学科各四十名だったと思います。最寄りのバス停は木辻南町でした。当時の学長は山田無文学長先生で戦争で亡くなられた方々の遺骨収拾を熱心にされた事など卒業後の私の教師生活に深い影響を与えて下さいました。そのひとつは卒業生一人ひとりに直筆の色紙を下された事です。

私も校長八年間、卒業生一人ひとりと十分間の面接をし、卒業生の「好きな言葉」を色紙に書いて渡し続けました。

退職して三年たった頃、三十八年務めた慶屋川市の公共施設が「学び館」として民間委託されると聞き、特定非営利活動法人「笑顔」を設立しヒヤリング、選考を経て今年四月から「市民の世代間の交流を推進し、人と人とのふれあいを図り、生涯学習の一助となる社会教育施策を実施すること」を目標に貸室業務・事業(書道、ボールペン、珠算教室、英会話、茶道教室、算数教室、囲碁、将棋、クッキング等)や人材育成の環境として毎週土曜(年五十二回)九時~十七時三〇分、小学生を対象に(学年に応じた)プリント学習や宿題交流(幼稚園児、高齢者、障害者等)体験(工作、クッキング、作物を育てる等)やパソコンによる調べ学習な

どを取り入れて子どもたちを育てる助としてスタートしました。

又、新たに今、小学生の夏休み中(七~二十一)八(十九)の十七日間(月~金) 九時~十七時三〇分)短期間ではありますが、土曜日に加え募集をしているところです。  
人との繋がりを深め、個から集団を形成させ、その集団の個々が集団を形成する力をつけさせ、心豊かな人間育成の一助になればと当時の学長山田無文先生からいただいた「火種」を子どもたちに引き継いでもらうため、仲間たちと頑張っているところです。

近況報告の機会を与えて頂きありがとうございます。

近況報告の機会を与えて頂きありがとうございます。私のリハビリテーションの視点には、大学で学んだ家族社会学の考えが息づいています。なにかお返ししなければという思いを抱いたまま時が過ぎていきます。本当にありがとうございました。



平成元年国文学科卒

金丸 友美

「想い出」  
皆さん、お元気ですか。

この原稿を依頼された日は、くしくも京都は大雨警報発令。  
梅雨明けが待ち遠しいなと思いつながら、テーマを「想い出」と決め、ペンを執りました。

卒業しても二一八年。  
まず思い出すのは、構内真ん中にあった「池」のことです。  
間違ってもキレイとは言えない、誰が呼んだか「飛び込み池」。何人の人が飛び込んだものか…  
今なら、「バイキンが」とか「病気や感染症が…」なんて言われるようなこと。当時はお構いなしで…  
ふざけたり、罰ゲームで私がよく目にしたのは、武道系の方たちが多かったような気がします。花大のシンボル池でした。

次に思い出すのは、今の体育館の前身の小さな体育館です。

私が入学した八十五年の入学式は、そこで行われました。  
卒業は新体育館(現体育館)でした。

当時は小さな体育館で、体育、部活動(サークル活動も)行われており、ところ狭しと譲り合って活動したものです。

現在の体育館になってから、新体操部も加わり、おごがましくも体育館系のサークルに在籍していた私は、決してスマートではない格好で汗を流しておりました。そして、活動後に先輩からおごつてもらうドリンクやお好み焼き、時にはアルコールの入る飲み物になるのも、また楽しい想い出です。

最後に、書道漬けの四年間。  
書道部ではないにしろ、下手は下手なりにその世界の片隅を体験させてもらい、和爾浜合宿にも参加しました。

教育実習を書道で行き、当時から偉大な教授であった先生に実習生視察で来ていただいたことは、今でも恐縮しきりです。  
実習では、教えることの奥深さや



平成元年社会福祉学科卒

吉田 春太郎

一九八三年三月、三十路を間近に控えたころに卒業しました。工業高校、私立高校を中退し、夜間高校に編入。卒業後は一旦、東京の私大に入学するも、これまた三年で中退。しばらく医薬品の営業などに携わっておりましたが、その後、花園大に三年から編入させて頂きました。

卒業後は静岡県島田市並びに兵庫県神戸市の知的障害者更生施設(現・障害者支援事業所)の生活指導員(支援員)、精神障害者小規模通所授産施設の施設長を経て、精神科病院の医療福祉相談室PSW(精神保健福祉士)として、相談支援課長の職務を仰せつかっておりますが、この程、かつて勤務していた施設の元上司が理事長を務めておられる東京都の社会福祉法人が運営する知的障害者通所事業所に於いて、副施設長兼サービスマネージャーとしてお招きにあずかり、赴任する運びとなりました。



昭和五十二年社会福祉学科卒

杉元 雅晴

花園大学文学部社会福祉学科を卒業して、三十九年になります。卒業後、教育(専門学校・大学)や臨床(病院勤務・リハビリテーション医療)で働く機会を得ることができました。現在も教職で仕事を継続できているのも花園大学で学んだ学園生活、故山田無文先生の接心の授業、ゼミでの体験などが身に染みており、いつ終わるか分からない討論を通して「自己」を見つめる体験が心の糧になっています。私のリハビリテーションの視点には、大学で学んだ家族社会学の考えが息づいています。なにかお返ししなければという思いを抱いたまま時が過ぎていきます。本当にありがとうございました。

これまでにない重責を担う事となり、幾分プレッシャーを感じているのも否めないではありますが、七転八起の精神で、引き続き精進して参る所存でございます。何卒、変わらぬご指導並びにご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

平成四年史学科卒

吉崎 直哉

同窓生に同様、ご無沙汰しております。

卒業から二十四年を迎えた本縁の三月、久々に本学の学友達と四条河原町で会いました。大学生活とともに学び、切磋琢磨して来た人生の貴重な時間を思い出しながら、懐かしく楽しいひとときを過ごす事が出来ました。

小学校入学〜大学卒業までの年月の経過は、大変長いものだと感じましたが、大学卒業後社会に出てからの年月の経過は大変早く、「十年一昔が、あっという間に過ぎ去ったなあ。」

と、日々痛感している今日今頃です。

そんな目まぐるしい毎日の中で、同窓会通信を拝読させて頂く時や、本学の学友達と出会う時が本当に楽しみです。卒業生の皆様のご活躍ぶりや、在校生の皆様のご活躍活動などに日々精進されている姿を見ると、日頃の吐息をバツに変えて、部屋中に飾ってくれる様な素敵な喜びに元気づけられております。

来月三月には、早くも卒業から四半世紀を迎え、さらには翌々年の四月には、入学から三十年を迎える事になります。本学在学中、あの日・あの時・あの場所様々な学問や事柄を学び、素敵な学友達と出会えた事に感謝し、本学で得た、強い絆と喜びを大切に、これからの人生を歩んでゆきたいと思っております。

文末になりましたが、これからの本学のご発展と皆様方のご健勝とご多幸を願いつつ、挨拶とさせて頂きま



平成四年文学専攻国文学修了

児玉 浩之

「いずれもが、つながりゆく。」

現在、烏丸御池にあります「初動負荷トレーニング施設」「フィールドウィング京都」でスタッフとしての日々を続けています。

在学中に始めた硬式テニスで神戸のテニススクールで業務に従事した後、並行して取り組んでいたトレーニングの世界に進みました。鳥取／本部での研修を経て、二〇一二年、開設された提携施設に配属され、今に至り

ます。

遙々と過ぎて、最初はまったく関係ないと感じたジャンルのいずれもが、時を経て意味を持つてくることを知りました。文学も、趣味も、スポーツも、そのほかいずれの経験も。共通するのはその時その時は一心にやっていたこと、でしょうか。

当時の失敗は、むしろ良い思い出になっています。悔やまれるのは、自分からやる前にあきらめたことだったりします。在校生の皆様ぜひ大学時代にしかできないことに専心してみてください。そう、切に願っています。



文学部教授 奥山 研司

文学部教職課程の奥山です。花園大学にお世話になってから十年が経過としております。着任の時には、

田清秀先生から大学のこと、研究のこと、教員養成のあり方等々、様々なことを教えていただきました。それまで中・高校の学校現場で教育実践に携わっておりましたが、これからは少し離れたところから教育や学校のことについて客観的に見たり考えたりしないといけないということを知り、田先生から学ばせて頂きました。

その田先生が大学を去られてのち、今年の二月に先生の訃報に接し少なからずショックを受け、いまはたいへん寂しく思っております。談論風発、お酒を交えた酒席での先生のお話が懐かしく思い出されます。

さて、近年私は学校の危機管理や学校安全のことについて関心が深く、四月十四日に起こった熊本地震でも、新年度の新学期が始まって早々の地震だっただけに、学校現場の大変さ、避難所となった学校の様子などたいへん気になるところでした。

私は元々社会科学教育・歴史教育を専門としている者ですが、この春ある教育雑誌の求めに応じて、これからは歴史教育にも近年の歴史学の動向も踏まえ、地震の歴史、など環境史の成果も積極的に導入すべきではないか、それが生徒達にとって歴史を単なる過去の出来事としてとらえさせない一つの方法ではないかという趣旨の提言をさせて頂きました。

その中でわたしは一例として、有馬一高槻断層帯が引き起こしたとされ、豊臣秀吉が伏見城で遭遇した守閣が倒壊したと言われる慶長伏見地震を取り上げました。

今回の熊本地震は、その原稿を出版社に送った四月十三日のまさに翌日に起りその偶然に我ながら驚いたわけですが、本震のあった翌日十七日の新聞報道(朝日新聞)を読んで私はさらに驚きました。それは、この慶長伏見地震の起る数日前に今回の熊本地震の震源域と重なる別府一万年山断層帯が動いた慶長豊後地震が起こっており、愛媛の慶長伊予地震とともに連動したことも考えられるとあったからです。

今回も連動するかもしれない。私はヒヤツとしたものでした。幸い数日経っても今に至っても京都近辺で地震は起こっていませんが、自然にとしては数日も数ヶ月も数年も同じ事でしょう。用心するに越したことはないのです。

花園大学も避難所になっていると聞きます。態勢の整備をしておかなければならないのではないかと案じている昨今です。



## 教員寄稿 —お久しぶりです—

書籍案内

『絵本版おはなし日本の歴史21 昭和の戦争』

文/奥山研司 絵/伊藤展安

このたび私は、歴史教育の一つの試みとして『絵本版おはなし日本の歴史21 昭和の戦争』(岩崎書店 2016年3月)を出版しました。イラストレーターの伊藤展安先生との共同作業です。

昭和の戦争と歴史という複雑で難しく未だに論争のあるテーマを、小学校高学年にもわかりやすくかつ読み物としても面白いものに仕上げるためにはどうしたらいいのだろうかと、企画段階から頭を悩ませました。

そこで考えたのが、正三という大正3年生まれの少年を主人公に、その成長のプロセスを昭和初年から正三が家族を残して出征する太平洋戦争前夜までを、昭和史の大事件をからませて描くという手法でした。

これによって、一つのストーリー性を持たせることができ、また歴史を庶民の目からそのディテールと共に描くことによって小学生でも理解できるようにしたつもりです。是非、ご一読頂ければ幸いです。



鈴木大拙『大乘仏教概論』 訳/佐々木閑

世界的な仏教思想家である鈴木大拙が、若い頃にアメリカで書いた英語のデビュー作を、日本語に翻訳したもの。本邦初訳。大乘仏教の本質を西欧の人々に紹介し、その素晴らしさを高らかに主張した本書は、その後の西欧における仏教理解に大きな影響を与えた。ただしそこには大拙独自の先入観も多く含まれており、それについては訳者後記において佐々木閑が詳細に論じている。



『NHK100分de名著ブックス ブッダ最期のことば』 著/佐々木閑

NHKのEテレ「100分de名著」のテレビテキストに、さらに書き下ろしの一章と「参考図書案内」を加えた新装版ブックス。45年間の布教活動の後、寿命が尽きて亡くなる間際の釈迦の姿を描いた『涅槃経』を分かりやすく読み解く。自分が亡くなった後の仏教の行く末を案じた釈迦は、様々な教を遺言として残したが、それらは現代社会で悩み苦しむ人々にとっても貴重なアドバイスとなっている。



『山猫先生オランダへゆく』 著/鈴木康子

本書は、私が1980年代後半にオランダ政府留学生として国立ライデン大学文学部史学科に留学した際に経験したさまざまなエピソードを述べながら、オランダのことをわかりやすく紹介したエッセイである。

オランダといえば日本人の印象としては、風車、チューリップ、チーズくらいのイメージしか湧いてこない国ではないだろうか。それは私が留学した時代から現在に至っても、その印象が変わりはないように思われる。

本書は、日本史専攻の私が異文化のオランダという社会の中で、かなり困惑しながら、オランダという社会を見つめ、日本と比較しつつ考えたことや、思いがけない経験をしたことを、オランダの特徴的なテーマをあげて、ユーモアを交えながら紹介している。本書を通じて、オランダという国のことが少しでも理解され、興味を持って頂ければありがたいと思っている。

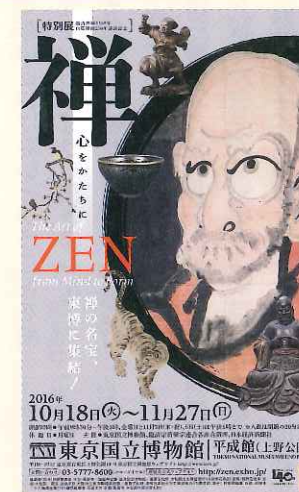


臨濟禪師 1150年 遠諱記念  
白隠禪師 250年

禪 一心をかたちに

会場/東京国立博物館  
2016年10月18日(火)~11月27日(日)  
※展示替あり

主催:東京国立博物館・臨濟宗黄檗宗連合各派合議所・  
日本経済新聞社  
<http://www.rinnou.net/>



花園大学歴史博物館 2016 年度秋季企画展 白隠禪師 250年遠諱記念

正受老人と信濃の白隠 入館料無料 ※会期中、大幅な作品の  
展示替を行います。

会場/花園大学歴史博物館(無聖館4階)  
開館時間:10:00~16:00(土曜日は14:00まで)  
休館日:日曜日(11月20日は開館)、11月3日(木・祝)・7日(月)・8日(火)・9日(水)  
※但し、大学行事により臨時休館する場合があります。

会期/2016年10月10日(月・祝)~12月10日(土)  
前期:10月10日(月・祝)~11月12日(土) 後期:11月14日(月)~12月10日(土)  
主催:臨濟宗妙心寺派、花園大学歴史博物館 協力:飯山市教育委員会

公開講演会のご案内

第87回

日時/2016(平成28)年 11月3日(木・祝)  
午後1時30分 開場(午後2時 開演)

会場/ピフレホール  
兵庫県神戸市長田区若松町

講師/岡田 彰布 氏 野球解説者・評論家  
演題/プロ野球今シーズンを振り返る  
一球界まるわかりー

第88回

日時/2016(平成28)年 11月22日(火)  
受付 午後4時30分  
開場 午後5時  
開演 午後5時30分~午後7時30分

会場/ホテル アゴーラ・リージェンシー堺  
4階ロイヤルホール 大阪府堺市堺区戎島町  
講師/池上 彰氏 ジャーナリスト  
演題/世界のこれからと日本人のあり方  
入場料/2,000円

※第88回公開講演会に参加ご希望の方は、下記同窓会南大阪支部までご連絡ください。  
花園大学同窓会南大阪支部 〒590-0954 大阪府堺市堺区大町東4丁2番7号祥雲寺内  
TEL/FAX: 050-3608-1577(午前9時~午後4時)

花園大学同窓会会員のみなさまへ  
『花園学園 150 周年記念誌』  
編纂への資料提供について



日頃は、花園学園へのご指導、ご鞭撻をいただき誠にありがとうございます。

花園学園は、明治5年(1872)に般若林として創立され、平成34年(2022)に「学園創立150周年」を迎えます。この機に、設置校(大学、中高、幼稚園)の歴史をすべて網羅した学園として初めての『学園記念誌』を発刊すべく現在、資料収集および編纂作業を進めているところです。

そこで大学同窓会員のみなさまにお願いがございます。みなさま方の大学在学中の思い出の写真・品物の中に、当時の大学の風景、活動、風俗などを伝えるものがありましたら、記念誌編纂委員会にて、一時お借りして編纂に役立てたいと考えております。ご寺院様におかれましては、花園学園を卒業された先代ご住職様、先々代ご住職様の思い出の写真・品物もお借りできればと願っております。

さらに、「当時の思い出」「未来の花園大学」「花園学園への期待」など文章にして寄稿していただくことも歓迎いたします。学園記念誌発刊に向けてご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2016(平成28)年9月

花園学園150周年記念事業委員会 常務理事 宮川 禅磨  
花園学園150周年記念誌編纂委員会 委員長 千代 眞一

<お問い合わせ・ご連絡先>

資料につきましてのご連絡は、記念誌編纂委員会事務局宛に、下記FAXにて、お手数ですがご連絡いただきますようお願いいたします。

「ご氏名」「ご連絡先電話番号」「資料の内容」を明記の上、FAXいただければ折り返し記念誌編纂委員会事務局よりご連絡いたしますので、同窓会員のみなさまのご協力よろしくお願い申し上げます。

花園学園150周年記念誌編纂委員会事務局 FAX番号 075-406-0313



花園大学 同窓会通信 93号 2016.9発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会本部

電話 (075) 811-5181 (代)

電話 (075) 279-3630 (直)

FAX (075) 823-2412

URL <http://www.hanazono.ac.jp>

E-mail [renkei@hanazono.ac.jp](mailto:renkei@hanazono.ac.jp)